

サービス担当者会議の要点

利用者名 麻生 まもる 殿

居宅サービス計画作成者(担当者)氏名 支援はじめ

開催日 平成23年04月01日 開催場所 利用者様ご自宅

開催時間 午後1時30分

開催回数 2回目

会議出席者	所 属(職種)	氏 名	所 属(職種)	氏 名	所 属(職種)	氏 名
	ご本人	介護 護	訪問介護トラスト	訪問一郎		
	家族	介護花子(妻)	居宅支援事業所トラスト	支援はじめ		
	麻生医院主治医	麻生大樹				
検討した項目	1)情報共有 ・護さんの身体状況について ・利用サービスの状況について 2)専門的な見地からの意見 ・身体状況の変化についての見解 ・サービス利用についての見解					
検討内容	1)情報共有 ・3ヶ月間、身体的には大きな変化はないとの情報を共有した ・認知症による行動障害が少し出現しているとの情報が共有できた 2)専門的な見地からの意見 ・閉じこもりがちになっており、刺激が少なくなっているために下肢筋力低下が目立つ。また、それに伴い若干の物忘れが見られ、介護者である高齢の妻の負担が増しているのではないかと心配しているとの見解あり。(主治医)					
結論	前回と比較して、身体状況等の変化は見られないことが確認できた。 しかし、若干閉じこもり傾向、またその事による下肢筋力低下、認知機能低下が見られる事が関係者の懸念事項であった。こうした事は、介護者の妻の負担を増す事ともなっているため、今後は、レスパイト及び本人の社会生活の広がりという観点から、通所系サービスの利用を検討してはどうかとの結論を得た。					
残された課題	通所系サービスについて、本人の意向を確認しながら、適切な事業所を選択していく事とする。 妻の介護負担が増さないように、見守りを継続していく。					
(次回の開催時期)						